

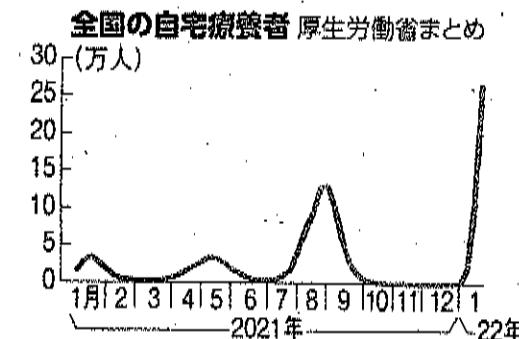
1/29 朝日

自宅療養、最多26万人 第5波の倍

新型コロナウイルスの感染拡大で、自宅での療養を余儀なくされる人が全国で26万4859人に達した。厚生労働省が28日、発表した。「第5波」に見舞われた。

た。昨年9月の約13万1千人の2倍を超え、過去最多となつた。感染が急拡大する地域では、保健所による健診観察が行き届かない事態も起きており、自分で重症化の兆候をとらえたり、家族への感染を防いだりする必要に迫られている。

厚労省によると、26時点の全国の療養者は過去最多の約41万5千人で、自宅療養者が約6割を占める。入院者は約1万7千人、宿泊療養は約2万3千人となつていて。療養先を調整中の人のが約10万9千人いる。自宅療養者を都道府県別に



見ると東京都が約4万3千人で最も多い。
全国の自宅療養者は5日

時点で約1200人だった
が、「第6波」で急激に増
えた。
(石塚広志)



自治体の資料などから

・家庭内感染を防ぐ

→部屋を分ける。重症化しやすい人を優先して個室に。難しければ2㍍以上の距離をとる

→感染者、同居者とともに、できる限り不織布のマスクを着ける

→食事は時間をずらす

→共用部分を消毒する

・重症化に早めに気づく

→酸素飽和度の変化を見る

・血栓を防ぐ

→ふくらはぎをマッサージし、室内を歩くなど軽い運動をする

家族全員が高熱 自宅療養「地獄」

「インフルや風邪とは全く違った」

「口ナの感染拡大を受けて、自宅療養者が28日、26万人を超えて過去最多となりたことが明らかになつた。容体が悪化しても保健所と連絡がつかないケースも急変しても迅速に対応してくれるのか。不安の声も漏れる。▼1面参照

「家族が次々に発熱し、地獄のような1週間でした」。家族5人で暮らす大阪市の女性(45)はこう話した。1月中旬、70代の母親が発熱。翌日以降、自身と保育園児の息子(4)、小学生の息子(11)、夫(45)が続いた。

家族全員が高熱と関節の痛みで水分を取ることも難

しく、食欲もない。女性は頭痛で立っていられず、夜は強い倦怠感と熱で1時間も寝られない。容体が急変しても迅速に対応してくれるのか。不安の声も漏れる。▼1面参照

「家族が次々に発熱し、地獄のような1週間でした」。家族5人で暮らす大阪市の女性(45)はこう話した。1月中旬、70代の母親が発熱。翌日以降、自身と保育園児の息子(4)、小学生の息子(11)、夫(45)が続いた。

家族全員が高熱と関節の痛みで水分を取ることも難

しく、食欲もない。女性は頭痛で立っていられず、夜は強い倦怠感と熱で1時間も寝られない。容体が急

変したら救急車を呼んで、自宅療養を経験した。

「大人が、歩けたり外に出られたりする状態ではなくなつてしまつた」という。

保健所に何度も電話した

がつながらない。一度だけつながると、「医療機関

を自分で調べて受診するよ

うに」と言われた。その

後、唯一体力があった夫が

かかりつけ医に連絡した。

「誰も助けてくれないの

がつらかった。手遅れにな

るのではとひやひやする日

だった」

12日に夫に発熱があり、1階の部屋に隔離。呼吸器系の持病を持つ母親は2階の部屋にこもり、夫が部屋で使う食器も洗わなくていいように紙皿にした。それで感染を防げなかった。せきなどの症状が長く続く母親は服用中の薬が途中で切れた。だが、かかりつけ医に連絡した。

「誰も助けてくれないのがつらかった。手遅れになるのではとひやひやする日だった」

(奥田由希子、山口勝太)

もしてほしく」と話した。
や生活必需品の支援だけで
福岡県の会社員女性(35)
は2階建ての家で母親(64)
と夫(35)、9歳の長男、5歳の長女と暮らすが、今月
に長女以外の4人が感染
し、自宅療養を経験した。

1日1回の健康観察の電話
はかかるてくるが、夫が高
熱を出した時に2人で計20
回くらい電話してもつなが
らなかつた。

「誰も助けてくれないの
がつらかった。手遅れにな
るのではとひやひやする日
だった」

(奥田由希子、山口勝太)